

環境教育関係事業について

札幌市が主体となって推進する環境教育・環境学習に関する取り組み

札幌市環境教育・環境学習基本方針で定めた4つの取り組み

- (1) 学校などの教育機関等で行われる環境教育の推進
- (2) 「環境人材」の育成
- (3) 環境教育・環境学習の場と機会の充実
- (4) 普及啓発のための情報の発信・広報と行動の後押し

1 令和元年度実施結果及び今後の予定について

(1) 学校などの教育機関等で行われる環境教育の推進

ア 環境に関する教育課程研究実践校事業（令和元年度のモデル校は5校）

令和元年度は、「札幌らしい特色ある学校教育推進事業」の一環として、「環境に関する教育課程研究実践校」として5校が指定され、持続可能な社会の実現に向けた環境に関する活動について研究実践を行い、すべての園・学校に研究成果等を提供することで、環境教育の充実を図りました。

[指定校一覧（令和元年度）]

環境に関する教育課程研究実践校	
札幌市立西白石小学校	札幌市立富丘小学校
札幌市立定山溪中学校	札幌市立福井野中学校
市立札幌大通高等学校	

イ さっぽろエコスクール宣言・さっぽろっこ環境ウイークの取り組み

札幌市の全ての市立幼稚園・学校では、自校において節電、節水、ごみ減量などの取り組みを行っており、教育委員会が「エコスクール宣言校」と認定しています。

エコスクール宣言校では、「環境首都・札幌」の宣言日である6月25日の前後2週間を「さっぽろっこ環境ウイーク」とし、この期間を中心に「環境」をテーマとした取り組み（「エコアクション」）を重点的に実施してい

ます。

ウ 環境副教材・教師用手引書

毎年度、市立小学校の新 1、3、5 年生の全児童に環境副教材を配布しており、それぞれ 2 カ年にわたって利用していただいています。また、教師用手引書も配布しています。より利用しやすい副教材・手引書とするために、「理科」「社会科」「家庭科」「生活科」「特別な教科 道徳」の各担当教員によるワーキンググループを組織し、改訂を行いました。

エ 環境教育へのクリック募金

「環境教育へのクリック募金」は、インターネットを活用した環境教育への支援制度です。札幌市環境プラザのホームページ上で、企業の環境活動を紹介。閲覧数に応じた金額を協力企業（現在は 8 社）にご寄附いただき、それを原資に環境教育教材を購入・寄贈しています。

今年度は、小中学校計 38 校に、手回し発電機、ガス検知管、野菜苗などの環境教育教材を寄贈しました。

また、クリック募金のホームページ上で「事業報告書」を公開し、各年度の学校での取組内容を紹介しています。

オ エコライフレポート

エコライフレポートは、小中学生に家庭のエコリーダーとして環境配慮行動を意識し、実践してもらうことを目的に、平成 19 年度から実施している事業です。

夏休み及び冬休み前に全市立小中学校の児童・生徒に用紙を配付し、身近なエコ行動への取り組みを促すものとして実施しています。

昨年度から、節電などのほか、環境にやさしいものを意識して使ってもらうための「エコマークの付いた商品をたくさん見つける」や地産地消を促進するための「北海道産の野菜を食べる」についても取り組み項目として設定しており、3 年間同様の取り組みを続けてもらうため、令和 2 年度まで、項目を変えずに実施します。

また、今年度の冬休み版では、海洋プラスチックごみやマイクロプラスチック問題について掲載し、自分たちに何ができるか考えてもらい、SDGs と関連付ける内容としました。

なお、取り組み結果については、これまでと同様、各学校においてどの

くらいの CO₂削減効果があったかを記載した「認定証」を配布しました。

<夏休みエコライフレポート>

児童・生徒の取組率 95.4%

	取組学校数	児童・生徒数	取組人数	取組率	
				令和元年度夏	参考(平成30年度夏)
小学生	200校	89,844人	87,190人	97.0%	96.9%
中学生	99校	43,091人	39,669人	92.1%	91.3%
合 計	299校	132,935人	126,859人	95.4%	95.1%

子どもたちによる CO₂削減量

	CO ₂ 削減量	
	令和元年度夏	参考(平成30年度夏)
小学生	1,023,949 kg-CO ₂	993,203 kg-CO ₂
中学生	517,505 kg-CO ₂	491,096 kg-CO ₂
合 計	1,541,454 kg-CO ₂	1,484,299 kg-CO ₂

※ 数値は児童・生徒たちの取組チェック項目からの1カ月の推計値

<冬休みエコライフレポート>

児童・生徒の取組率 93.4%

	取組学校数	児童・生徒数	取組人数	取組率	
				令和元年度冬	参考(平成30年度冬)
小学生	199校	89,947人	85,491人	95.0%	94.7%
中学生	99校	43,091人	38,791人	90.0%	89.7%
合 計	298校	133,038人	124,282人	93.4%	93.1%

子どもたちによる CO₂削減量

	CO ₂ 削減量	
	令和元年度冬	参考(平成30年度冬)
小学生	2,092,475 kg-CO ₂	2,168,078 kg-CO ₂
中学生	1,020,395 kg-CO ₂	1,035,839 kg-CO ₂
合 計	3,112,870 kg-CO ₂	3,203,917 kg-CO ₂

※ 数値は児童・生徒たちの取組チェック項目からの1カ月の推計値

カ 校外学習用バス貸出

環境に関する体験学習の場の提供を目的に、市内小中学校を対象に環境教育に関する校外学習用バスの貸出事業を行っています。

道内連携や学校現場のニーズを踏まえ、平成 28 年度から札幌近郊や民間企業施設も見学対象施設として拡充しております。

具体的には、太陽光発電や風力発電の設備、LNG（液化天然ガス）基地などを見学施設に組み込み、実践的に学べるよう工夫しております。

なお、今年度についても、昨年度同様、バスの手配が困難な夏季の観光シーズンを避けて実施しており、貸出期間を 10 月 14 日から 12 月 13 日までとし、46 校が利用しました。

[バス貸出実績推移]

	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R 元年度
応募校数	103 校	103 校	58 校	59 校	52 校	49 校	46 校
利用校数	46 校	34 校	50 校	59 校	52 校	49 校	46 校
バス利用台数	94 台	76 台	99 台	125 台	110 台	98 台	96 台

※ 校数・バス利用台数は延べ数。

※ 小学校を対象に平成 19 年度事業開始。平成 21 年度からは中学校も対象。

※ 平成 26 年度から夏季繁忙期におけるバスの手配が困難となり、実施期間を 11～12 月に変更。

<主な見学先（令和元年度）>

見学先	見学校数（延べ）
アイヌ文化交流センター	10 校
白石清掃工場	9 校
豊平川さけ科学館	6 校
北海道ガス石狩 L N G 基地	5 校
水道記念館	5 校
北海道博物館	4 校
円山動物園	4 校
定山溪ダム	3 校
中沼資源選別センター	3 校
ホクレンパールライス工場	3 校

キ 教員に向けた研修

札幌市の学校教育に携わる教職員の資質向上と専門的な力量を高めることを目的に、「教育課題研修コース（環境教育）」や「教職基礎研修コース（環境教育の基礎）」などの環境教育に関する専門的研修を札幌市教育センターなどにおいて実施し、今年度も延べ 30 人以上の教員が受講しました。

ク エネルギーに関する環境教育の推進

市内の小学校 112 校、中学校 43 校に太陽光発電設備を設置しており、環境学習等に活用できるよう発電量等をモニターで確認できる設備を備えています。

平成 28 年度からは、校外学習用バス貸出事業において、太陽光発電や風力発電などの再生可能エネルギーや LNG(液化天然ガス)基地などを見学施設に組み込んだモデルコースを新たに設け、実践的に学べる取り組みを行っております。

(2) 「環境人材」の育成

ア 環境保全アドバイザー・環境教育リーダー派遣

市民団体、町内会、学校などに対して、環境に関するアドバイザーやリーダーを派遣する制度です。

「札幌市環境保全アドバイザー派遣制度」は、地球環境、自然保護、リサイクル、ごみ問題等の消費生活などさまざまな環境分野の研修会、学習会等に専門家を派遣する事業で、12 人のアドバイザーに登録いただいております。

「札幌市環境教育リーダー派遣制度」は、主として野外での活動を通して、植物、野鳥、昆虫、水生生物などの自然観察会や地球温暖化、ごみ、エコライフ分野の指導、解説者を派遣する事業で、31 人のリーダーに登録いただいております。

今年度当初のリーダー登録数は 29 人でありましたが、リーダーの高齢化が進んでいるためスキルを継承しながら世代交代する必要があること、また、近年、複数のリーダーの派遣が必要となる川での水生生物観察会や幼稚園・保育園における自然体験会の需要が増加しており、対応可能なリーダーが不足していることから、今年度新規募集を行い 2 人のリーダー増員

を行いました。

なお、平成 30 年度から、環境教育リーダー制度運営事務取扱要領を一部改正し、1 団体当たりの派遣回数を 3 回から 2 回に減らしました。これにより、1 団体の利用回数を減らし、環境活動の入り口として、新しい団体にも利用していただけるような体制にしています。

【派遣実績】

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
環境保全アドバイザー 派遣件数 (参加人数) <登録者数>	44 件 (3,043 人) <14 人>	45 件 (2,926 人) <14 人>	44 件 (1,398 人) <14 人>	40 件 (1,530 人) <13 人>	39 件 (1,764 人) <12 人>
環境教育リーダー 派遣件数 (参加人数) <登録者数>	105 件 (5,121 人) <31 人>	93 件 (3,558 人) <27 人>	100 件 (3,869 人) <32 人>	75 件 (2,175 人) <32 人>	57 件 (1,736 人) <31 人>

※ 令和元年度は、令和 2 年 2 月末現在の実績

イ 札幌市環境プラザにおけるリーダー育成

(7) こどもエコクラブ

環境プラザでは、公益財団法人日本環境協会が実施するこどもエコクラブの札幌市内における事務局を担っており、こどもエコクラブへの登録団体およびこれから環境に関する活動を始めようとする団体への情報提供を行っています。今年度はこどもエコクラブを新設した団体へ全 5 回のプログラムを提供し、指導者、子ども双方に主体的な学びの方法を伝える支援をしました。

市内のこどもエコクラブ交流会では、安全な食べものがどのように作られているのかを知り、地産地消に目を向ける機会として、市内の農園を訪れ、野菜作りをしている方々から直接話を聞く「食べ物の産地訪問～さっぽろ産の野菜～」を実施しました。

活動を通してエコクラブのサポーター同士が活動内容の情報を交換することもでき、意義のある交流会となりました。

また、活動写真展をとおして、各クラブの活動を伝え、環境活動を普及する機会としました。

(イ) 学生サポーター制度

平成 27 年度に環境プラザ学生サポーター制度を創設。環境プラザが行う事業に運営サポーターとして参加する機会を設けるとともに、学生サポーター自身にとっても環境教育への理解を深め、今後の活動に生かせる学びの機会となるよう運営しています。

(ウ) 指導者向け研修

保育者や教員、町内会役員など伝える立場の方を対象に、環境教育や環境保全活動に関する事業を実施しています。

「作って使おう！ミツロウエコラップ」では、繰り返し使える蜜蝋ラップについて学び、実際に作ってみることで、プラスチックごみの削減について関心を持ち、ご自身で実践すると共に周りの方に広めてもらうきっかけづくりとしました。

ウ 環境教育ワークショップの開催

環境問題を含む社会課題については、2030 年に世界を持続可能な社会とするための目標である SDG s の視点から、様々な分野や他者との関わりの中で解決していくことが求められます。

そのため、今後は環境問題について、より広い視野で捉え、他者とのコミュニケーションを図りながら行動できる人材を育成していく必要があります。

そこで、諸課題の同時解決の視点などを盛り込みながら、環境問題について考えてもらう「環境教育ワークショップ」を来年度に開催します。

(3) 環境教育・環境学習の場と機会の充実

ア 環境プラザにおける学習支援等

環境プラザ見学者への展示解説や展示物を利用した見学者向け環境教育プログラムの実施、教材の貸し出しなど、利用者の要望に合わせた学習支援を行っています。

また、夏休みには、平成 30 年度に引き続き「夏休み自由研究応援講座～まちの中で養蜂体験！」と題して、札幌の街なかで行っている養蜂を専門家から直接教えていただき、採蜜体験やミツバチの観察を行うプログラムを実施。自分たちが普段食べているものがどのようにできているかに関心

を持つきっかけを作るとともに、体験だけにとどまらない主体性のある学びの方法を伝えました。

このほか、「環境広場さっぽろ 2019」や「東区児童会館まつり」への出展など、さまざまなイベントにおいて環境に関する体験学習の場を提供したほか、市民活動団体や大学と連携した事業を実施しました。

さらに、家庭の消費電力見える化機器（省エネナビ）の貸し出しや、環境相談員による省エネ節電のミニ講座なども行っており、エネルギー学習の支援をしています。

イ 環境教育関連施設連携事業の実施

より効果的な環境教育を推進するため、市内の環境関連施設との情報を共有・活用することで、施設間の連携を進めています。

平成 28 年度から開催している「インタープリターズキャンプ in 札幌」を、各環境教育関連施設の共催で今年度も実施。札幌市青少年山の家を会場に、環境活動の実践者や指導者向けの講座として、公益財団法人キープ協会から講師を招き、インタープリテーションの基本・実践や地域資源を生かしたプログラムデザイン、活動の幅を広げる他者との連携・協働を学びました。

また、クイズに答えながら各施設を巡る「いきものつながりクイズラリー」（生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワーク主催）も昨年度に引き続き開催しました。

※ インタープリター：自然と人との仲介役として、知識のみならず自然の面白さや大切さを伝える人。

ウ さっぽろこども環境コンテスト

昨年 12 月 7 日に、小中学生の環境活動を発表する「さっぽろこども環境コンテスト 2019」を開催しました。今年度は、学校外団体の部 3 団体、小学生の部 2 校、中学生の部 6 校の合計 11 団体に参加いただきました。

そのほか今年度は、「環境に関する教育課程研究実践校」の札幌大通高等学校に特別発表してもらいました。

また、各部の最優秀賞を受賞した 3 団体には、令和 2 年 1 月 22 日に市役所本庁舎にて開催した市長報告会において、直接市長へ発表内容を伝えて

いただきました。

審査員長	北海道大学教授	大沼 進 氏
審査員	NPO法人北海道エコビレッジ推進プロジェクト代表	坂本 純科 氏
審査員	市立札幌平岸高等学校学校長	尾崎 寿春 氏
審査員	札幌市環境局環境都市推進部長	大平 英人 氏

[発表団体] ◎：最優秀賞受賞団体 ○：優秀賞受賞団体 ●：クリック募金特別賞

学校外団体の部	小学校の部	中学校の部
◎栄西児童会館 タッピーファーム	◎札幌市立西白石小学校 6年生	◎札幌市立屯田北中学校 科学部
○小野幌エコクリーン (こどもエコクラブ)	○札幌市立富丘小学校	○札幌市立定山溪中学校
●旭山自然調査隊		●札幌市立米里中学校 科学部
		●札幌市立福井野中学校
		●省エネ探求団 (藤女子中学校)
		●札幌市立宮の森中学校 科学部

[特別発表団体]

市立札幌大通高等学校遊語部

(4) 普及啓発のための情報の発信・広報と行動の後押し

ア 環境プラザホームページ等

環境プラザでは、講師派遣や貸出教材、事業などについてホームページを利用して情報提供を行っています。また、フェイスブックやブログを利用した情報発信も行っています。

【ホームページアクセス件数】

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
環境プラザHP	233,566	134,700	95,649	80,680	70,356
キッズページ	14,937	6,757	8,924	3,255	2,519

※ 令和元年度は、令和2年2月末現在の数値。

※ 平成28年度中に件数カウンターを入れ替えたため、アクセス件数は27年度以前と比較できない。

イ 「環境中間支援会議・北海道」の取り組み

「環境中間支援会議・北海道」は、行政や地域など、さまざまな組織との間に立って、情報提供やアドバイス、コーディネート等のサポートを行う組織で、環境省北海道環境パートナーシップオフィス（通称：EPO 北海道）、公益財団法人北海道環境財団、札幌市環境プラザ、NPO 法人北海道市民環境ネットワーク（通称：きたネット）の4組織が連携して、北海道内におけるさまざまな環境活動を支援するための連携組織です。環境省北海道地方環境事務所、北海道、札幌市もオブザーバーとして、定期的に参加される会議に参加しております。

このほか、環境教育施設に関する勉強会なども、公開により行っており、今年度は施設の運営評価の手法をテーマに開催されました。

ホームページ「環境☆ナビ北海道(<http://enavi-hokkaido.net/index.html>)にて、環境に関するイベント情報や助成金などの公募情報、キャンペーン情報などを配信しています。

ウ 「環境教育・環境学習ガイド」の作成

庁内で行われている環境教育関係事業を集約し、掲載した「環境教育・環境学習ガイド」を新たに作成しました。

作成したガイドを庁内で共有することによって、各部局が環境教育・環境学習に対する意識を高め、基本方針の趣旨に沿った事業展開を図るよう促進するとともに、庁内外との協働・連携により環境教育関連事業を推進するための資料とします。

また、市民への広報、情報提供としても活用することにより、環境教育関係事業に関する情報収集の効率化や各事業への参画などを促進し、環境教育・環境学習のさらなる推進を図ります。